

令和6年度 年間学習指導計画案

科目	数学A	単位数	2単位 (2・3学期)	学年・学科・コース	1年・普通科・スポーツコース
使用教科書	最新 数学A(数研出版)		副教材等	なし	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	図形の性質、場合の数と確率について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
9	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数	・場合の数を求めるときの基本的な考え方についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	○			場合の数を、もれなく重複なく数える手段として、樹形図が有用であることを理解している。	定期考查 授業態度 課題
				○		場合の数を数える適切な方針を考察することができる。	
					○	組合せの考え方を利用して、図形の個数や同じものを含む順列の総数などが求められることに興味・関心をもつ。	
10	第2節 確率	・確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	○			確率の意味を理解している。	
				○		2つの独立な試行を行うとき、その結果として起こる事象の確率について考察することができる。	
					○	具体的事象について、反復試行の確率を、興味をもって調べようとする。	
11	第2章 図形の性質 第1節 三角形の性質	・三角形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	○			三角形の内角・外角の二等分線と比の性質を用いて、線分の長さを求めることができる。	
				○		証明する際に、適当な補助線を引いて考察することができる。	
					○	身近な問題に対し、チェバの定理を活用できることを理解し、図形の性質に興味・関心をもつ。	
12	第2節 円の性質	・円の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	○			中学校で学んだ円周角の定理やその逆について理解している。	
				○		方べきの定理は、円周角の定理や円に内接する四角形の性質などを用いて証明されることに関心をもつ。	
					○	2つの円の位置関係の判定条件として、中心間の距離と半径の関係について、積極的に考察しようとする。	

月	学習項目	学習内容 (ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
1	第3節 作図	<ul style="list-style-type: none"> 作図についての理解を深め、作図の各過程において平面図形のどの性質を用いているかを考察できるようにする。 	○			<p>垂線を引く、垂直二等分線を引く、角の二等分線を引く、平行線を引くなどの基本的な作図を行うことができる。</p> <p>作図の各過程において、平面図形のどの性質を用いているかを考察できる。</p> <p>数学で扱う作図と、日常において図形をかくことでは、何が違うか考えてみようとする。</p>	定期考査 授業態度 課題
2	第3章 数学と人間の活動	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな人間の活動の中から、整数を中心とした数学的な要素を見出し、数学の内容の理解を深めると同時に、現実の事象を、数学を用いて考察できるような力を培う。 	○			約数・倍数の意味を理解している。	
3	第1節 約数と倍数			○		問題解決の過程を振り返って、割り算の余りの性質について考察を深めることができる。	
	第2節 1次不定方程式				○	日常生活における具体的な事象の考察に、約数と倍数の考えを活用しようとする。	